

# おがたさん

107号

真宗大谷派  
高徳寺通信

2024年 夏号



釋義

# 新井白石 特集

高徳寺の境内墓地には江戸時代中期の儒学者として大変有名な新井白石先生（1657-1725）と末裔の方々のお墓があります。今年2024年（令和6年）は、白石先生がお亡くなりになられてから299年が経ち、仏教の年忌法要の年数でかざえますと、ちょうど三百回忌となり、誠に稀有な年にあたります。\*祥月命日

命日の5月19日に、白石先生の子孫であります新井家の方々ならびに関係者の方々とともに、白石先生の三百回忌法要を本堂にて勤めさせていただきました。高徳寺では代々、新井白石先生ご夫妻とご一門（末裔家）のお墓を守

\*祥月命日：故人が亡くなった月日と同じ月日。

てまいりましたが、三百回忌という節目の法要をお勤めできましたことは、高徳寺住職としましては誠に感慨深いものがあります。昨年より、直系の第12代当主ご夫妻、白石研究者の坂井昭先生高徳寺総代会の方々とともに、この三百回忌法要に関するのさまでまことに、て会合を重ね、祥月命日の日に無事に勤まりましたことは、有ること難いおなげさんであります。107号では特集を組んで白石先生のこと、高徳寺との縁などに加え、法要のご報告をさせていただこうと思ります。“新井白石特集”をご覧になっていただけ、白石先生を身近に感じていただけましたう幸甚でござります。

◆ 高徳寺第二十六世住職 繩義祐 拝

◆ 次頁以降、文中で“白石”と書くことが、多々あります。ご了承ください。

# 新井白石先生の プロフィールの巻

新井白石は1657年（明暦3年）、明暦の大（あらい）火（白石誕生の約20日前）「振袖火事」で江戸の大半が焼けた年に、親戚筋（おやじきん）で土屋家の避難先となった神田柳原（よじえんばる）の内藤家仮屋敷で、父・新井正濟（まさなり）（與次右衛門）と母・千代との間に生まれました。誕生日は2月10日。幼名を與五郎（よしろう）といい、17歳（ことくに）には諱（ひ）、（實名）を伝蔵（でんざう）となっていました。又、成人の代表名としたのは年代的に37歳（ことくに）降のことのようですが、諱を君美（きみみ）とされています。漢詩をつくる時は白石（雅号）（よしろう）となりと、いろいろな名前

をお持ちのようでした。

上総国（千葉県中央部）・久留里藩の家臣の家に生まれた白石には、奴ると“火”の字に似た皺（しわ）が眉間に出来たと伝えられていて、このことや江戸の大（あら）火にまつわる出生のエピソードから、藩主・土屋利直（つちやまとしゆ）には“火の子”と呼ばれてかわりがられたそうです。そして幼い頃より、非凡な才能を表されたと伝えられています。白石の転機（あんき）の一つとなるのが中江藤樹（なかえとうじゅ）の『翁問答』（書物）との出会いです。これを機に、17歳の白石は儒学（じゆがく）を志したそうです。ところが白石が18歳（1675年）の時、土屋利直の死に端を発した土屋家のお家騒動（ごえいどう）に新井父子は巻き込まれてしまいます。藩主を継いだ土屋頼直（よりひさ）には狂氣（きょうき）の振る舞いがあり、父の正濟と白石親子はあらぬ嫌疑（けいぎ）をかけられて土屋家から追放されましたが、そこで新井父子は延宝5年（1677年）に土屋家を後にして、父子で浪人となります。高徳寺などに身を寄せ、貧しいながらも儒学や史学（しがく）などに学問に励みました。新井親子が久留里藩・土屋家を後にしても、15年程経つ

と風向きが変わり、白石の冬の時代は終わりを告げます。新井父子に転機が訪れたきっかけは、1579年（延宝7年）の土屋家（直樹）の改易（大名から領地屋敷などを没収し、身分を剥奪する刑罰）です。これにより、新井父子の「奉公構」という奉公を禁ずる慣習から解かれました。土屋家の改易から3年後、大老・堀田正俊に白石が仕えることになりました。白石26歳の時です。しかし、1684年（貞享元年）に江戸城内で若年寄・稻葉正休に堀田正俊が刺殺されるという事件が起こったこともあり、その後、白石は堀田家を去りました。白石は再び浪人となり、儒学の一派、朱子学を独学する道を選びました。一人で朱子学を学んでいた白石は、1686年（貞享3年）朱子学者・木下順庵の門下生になりました。順庵は日ごろより白石の聰明

やさを高く評価していました。かつて五代加賀藩主・前田綱紀に仕え、学問の振興を図った順庵は1692年（元禄5年）に加賀国への就職を白石に斡旋したことがあったが、同門の岡島忠田郎より「年老いた母が加賀にいるので加賀への仕官を譲ってほしい」と懇願され、岡島に譲りあげたそうです。1693年（元禄6年）、白石は順庵の推薦によって、甲府藩主・徳川綱豊の儒臣に抜擢されました。綱豊はのちに徳川家宣と改名し、江戸幕府6代将軍となります。将軍となつてわずか3年でこの世を去り、7代目の家継も早世：8代将軍・吉宗の代でお役から離れます。隠居後の白石は、詩作と著作活動に勤しみ、自伝『折下く柴の記』『西洋紀文』、『蝦夷志』、『采覽異言』など数々の書物を残しました。江戸時代の思想に大きく影響を与えた白石は、幕府より与えられた内藤宿六軒町の地で晩年を過ぎ、1725年（享保10年）5月19日に69歳（かどき）でこの世を去りました。

## 高徳寺の移転と

### 新井家の墓石の移転

新井家に伝わる自家系譜書「先祖書」  
(第8代当主・新井懋作成・1867年(慶応3年))では、白石の祖父にあたる「元祖新井勘解由」以降、懋心まで計10名の歴代当主を記録していますが、初代の新井勘解由の埋葬地を、常陸国筑波群田中莊にあつた聖徳寺とし、第2代の白石の父の正済から懋心までの9名の当主は、すべてを坂東報恩寺等に葬ったと記録しています。白石の父、正済が徳川家の歴史に心酔し、家康の江戸城構築の事績や源氏の血筋を尊崇し、強く執着したらしいことが、白石の徳川家や武家・源氏への尊崇観、新田系譜への関心と指向性を高めていたのではないかと

いえます。とくに江戸城築城の際、坂東報恩寺が桜田(今の東京都千代田区の日比谷公園のあたり)にあり、築城の都合で他地に移転した歴史などを重んじ、高徳寺が報恩寺の塔中であったことのと思われます。坂東報恩寺と高徳寺は1657年(明暦3年)の大火から169年くらいの間は、それぞれ本院と子院(塔中)の関係を保持しながら、ともに伽藍は浅草の東本願寺の東口側にありました。その後、1826年(文政9年)に報恩寺は北清島町へ今、の東京都台東区東上野6丁目に移りました。その時にこのしたまま、寺施設を西側の北松山町(今の東京都台東区松が谷1丁目周辺)に移転させました。それから83年が経ち、1910年(明治42年)に高徳寺があた場所が区画整理事業地となり、それに伴って旧来の新井家の墓地からそれを遺骨と墓石を9基(石組)ずつ、計18基をまとめ、2日後の4月6日に現在地の中野区上高田の地に移設、再埋葬を済ませました。移転から現在(2024年)まで、150年の歳月が流れています。

## 新井家と

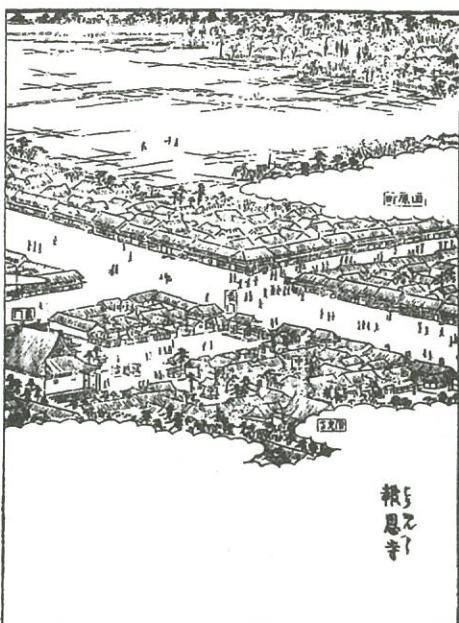
## 高徳寺との

### ご縁

白石の祖母の妹さんが高徳寺の住職・釋了鷹さんの妻(釋了鷹)

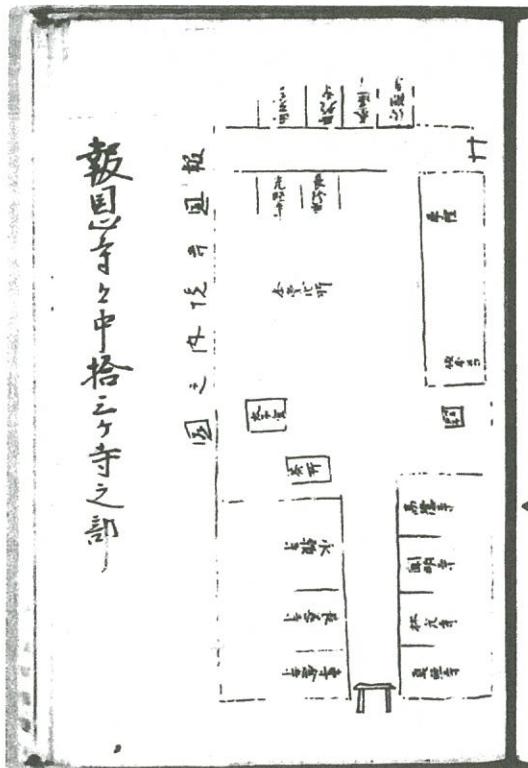
であったことから、白石は二度にわたり高徳寺へ寄食されてゐる。一度目は延宝三年(1675年)から4年間、二度目は元禄四年(1691年)から同六年まで。いざれも貧苦不遇の時であったが、白石はそれに負けず勉学にいそしみ、独学で万巻の書を読まれたといふのである。眠くなると手桶の水をかぶり寸暇を惜しんだと伝えられている。白石の父母は、正清(白石の父)が(土屋家を)致仕して以来、剃髪して高徳寺に身を寄せ、静かに余生を送つたと伝えられてゐる。

※致仕とは官職を辞して隠居すること。



報恩寺とその周辺

『江戸名所図会』卷之五  
(角川文庫本)



当時、報恩寺内には十三ヶ寺の塔中  
があったという。高徳寺はそのうちの  
一つ。『寺社書上 下谷報恩寺書上』  
(国立国会図書館デジタルコレクションより)  
※インターネットで観ることができます。

# 高徳寺境内墓地にある 新井白石夫妻と末裔の墓石

法名「慈清院殿釋淨覺大居士」



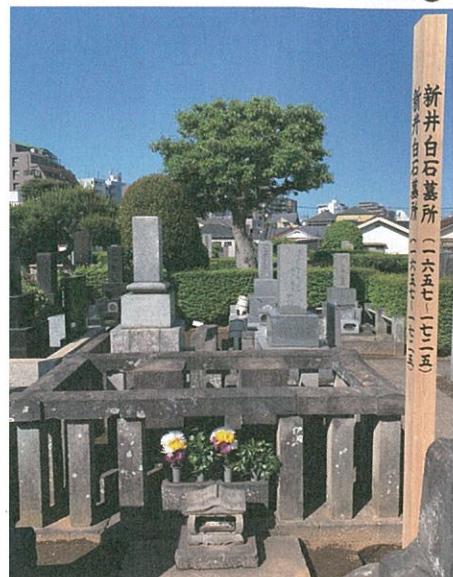
◆左面・背面は無文字。右面に文字が刻まれているが、判読不能。

法名「清涼院殿釋妙慶信尼」

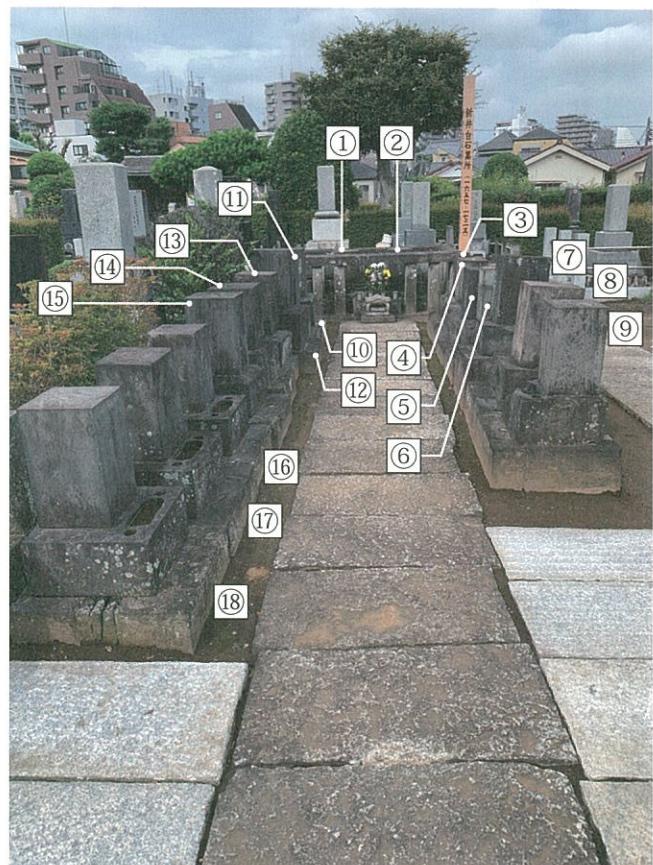


◆左面・背面は無文字。右面の彫刻も判読不能。  
◆「日氏」は「日下部氏」を指すものと思われる。  
夫人の母方が日下部氏を名乗っていたようである。

- ① 新井源公之墓 (石柵内、向かって左側)
- ② 源公夫人日氏之墓 (石柵内、向かって右側)



◆新井白石夫妻の墓石 (石柵内の左右)



◆新井白石夫妻の墓石と末裔の墓石 (左右)  
全部で18基ある。(東京都の旧跡に指定)

## 右列側墓石

(新井白石夫妻の墓に向かって)

③ 第2代 新井明卿あきのり

法名「清松院釋林覺居士」



(1691-1741)

④ 明卿夫人  
法名「貞修院釋實言禪尼」



(邦萼 1720-1775)

⑤ 第3代 新井邦萼夫妻  
勇哲源公 / 配戸田氏合葬墓



⑥ 第4代 新井邦賢夫妻

法名「以誠院釋至善居士」



(1730-1787)

\*邦賢↑

⑦ 第5代 新井成美夫妻  
“子教源府君 / 獨人小林土氏墓”  
※「子教」は成美の雅号。『獨人』は妻の尊称



(成美 1770-1794)

⑧ 新井平藏君 / 新井尚之丞君  
\*明卿の弟の宣卿 / \*6代抱義の四男



(宣卿 1699-1723)

⑨ 某幼女の墓(成美の妹)  
法名「即現院釋慧愛童女」  
明和七庚寅天 / 六月二十四日



## 左列側墓石

⑩ 第6代 新井抱義

“公賢源府君之墓”



(1770-1819)

⑪ 黒川氏夫人之墓  
\*第6代抱義夫人



(12) 第7代 新井 邦

“公彦源府君之墓”



(1797-1858)



(13) 新井永世之墓

\* 第6代抱義の三男

錦三郎永世。彼は17歳  
で命終。(左側面に文字あり)

第8代新井懸心の墓

法名「春性院釋覺誠居士」  
※ 法名と十三年の暮れに法事を  
した年月日が右面に刻まれ  
てある。

(14) 新井緝之墓

\* 緝 : 「おさむ」と読むか。  
抱義の惣領で病死夭逝。

(惣領は跡取りのこと)



(15) 貞信院釋妙照大姉の墓

\* 法名のみ彫刻・某女性の墓



(16) 童女の墓

\* 某幼女の墓



(17) 常照院釋智貞童女の墓

\* 某少女の墓



(18) 如是院殿釋證光童子の墓

\* 某男児の墓



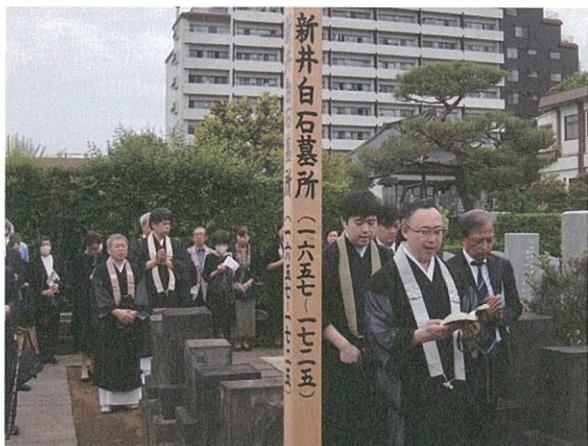
以上、新井白石夫妻と末裔  
のお墓のご紹介でした。  
こちらの解説をご覧になり  
ながら静かにお参りして  
いただきたいと田口います。

合掌

# 新井白石三百回忌法要

墓参

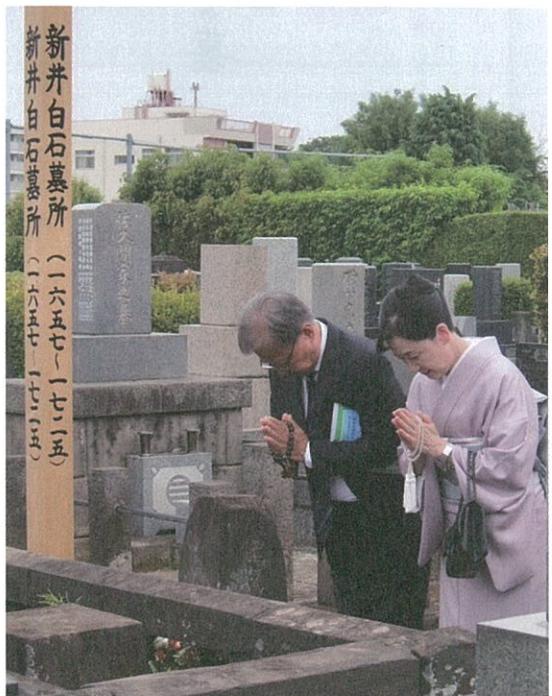
参詣者全員で白石先生のお墓に  
お参りをいたしました。



墓前でお勤めをして、一人ずつお参りを  
いたしました。



新井家では命日の19日(祥月も命  
日)には、芍薙(しゃくやく)をお供  
えされているそうで、この日も大変綺  
麗なお花(芍薙)を供えられた。



第12代当主ご夫妻のお参り…